

会 議 録

(9-1)

会議の名称		令和7年度第2回 春日部市いじめ問題対策連絡協議会	
開催日時		令和8年2月12日(木)	開 会
			午前10時00分
		閉 会	午後00時00分
開催場所		春日部市役所本庁舎 委員会会議室	
議長(会長等)氏名		大塚 剛司	
出席者	委員氏名	(出席人数： 14人)	
		柿澤 英和 中島 毅 長谷川 肇之	
		木村 浩 鈴木 京子 大塚 剛司 藤井 博子	
		鈴木 敏仁 竹内 和子 小岩井 稔之 古郡 真二	
		富賀 健一 鶴見 和弘 関根 栄治	
	説明者 その他		
	事務局		
		(出席人数：2人)	
		学校教育部指導課指導担当主幹 榎本 充孝	
		学校教育部指導課指導担当主査 西山 拓	
次第及び公開、一部公開、非公開の区分 公開	1 開会 2 挨拶 3 協議・報告 (1) 市内小・中・義務教育学校におけるいじめの状況について (2) 令和7年度いじめの防止等のための取組について (3) 令和8年度いじめの防止等への対策について (4) その他 5 閉会		
一部公開・非公開の場合はその理由	☐ 要綱第3条第1号該当： ☐ 要綱第3条第2号該当： ☐ 要綱第3条第3号該当： ☐ 要綱第3条第4号該当：		
配布資料	資料1：第2回春日部市いじめ問題対策連絡協議会会議資料 ・春日部市いじめ問題対策連絡協議会次第 ・第1回春日部市いじめ問題対策連絡協議会の会議録 ・いじめの防止等のための取り組みについて ・令和7年度スーパー元気さわやかキャンペーン取組 ・座席表		

	・春日部市いじめ問題対策連絡協議会の規則 ・SNS上における暴力行為等の動画の投稿拡散に関する緊急の対応要請について
--	--

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
司会 司会 教育委員会教育長	(配布資料の確認) (開会、会議成立及び議事公開の報告) ― 春日部市教育委員会教育長挨拶 ― ・ 暦の上では春に近づいているが、現在インフルエンザが「第2波」として流行し、学校現場では学級・学校閉鎖が発生している。 ・ 年明けに他県で発生した、生徒による暴行動画のSNS拡散事案に触れ、その根底にある「暴力行為」といういじめを学校側が把握できていなかった点を重く受け止めている。 ・ 文科省の緊急会議を受け、本市としても「緊急の確認・点検」「いじめは犯罪行為であるという毅然とした指導」「警察等の関係機関との迅速な連携」の3点を徹底する。 ・ いじめ問題は多様化・複雑化しており、学校だけの力では限界がある。家庭、学校、地域、関係機関が「面」となって子供たちを見守るための協力をお願いしたい。
司会 議長	・ 本日の進行を副会長に依頼 ・ 資料1「第1回春日部市いじめ問題対策連絡協議会 会議録」の確認を求めた。委員からの訂正や追加の有無を確認し、前回の議事録が正式に承認された。
事務局	-協議事項(1): 春日部市内のいじめの状況について- ・ 小学校高学年および中学校において認知件数が増加している点に触れ、各学校が「疑いの段階」から積極的にいじめを認知し、早期対応に繋げている結果である。 ・ 小学校では「保護者からの訴え」や「本人以外の児童生徒からの情報提供」がきっかけとなる割合が高く、家庭との連携が認知の多さに寄与している。 ・ 中学校の件数減少については、トラブルが表面化しにくい側面がある。
議長	-協議事項(2): 令和7年度のいじめ防止等の取組について- ・ 資料3は第1回の議事録から各団体の取り組みをまとめたものであるため、これに基づき追加の取り組みや成果などについて、小学校長会から順に発表を求めた。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
小学校長会	・ 2 月末に各中学校ブロックで「スーパー元気・さわやかキャンペーン」を実施した。児童生徒が主体となり、地域や保護者も参加して、いじめ防止に向けた考えを発表し合った。 ・ 月 1 回程度の「心のアンケート」等で早期発見に努め、事案発生時は関係機関と連携した会議を開き早期対応を図っている。 ・ S N S については道徳の授業等を通じて、ネットいじめやネットトラブルの防止を指導している。
議長	・ 地域と連携した多岐にわたる取組に感謝を述べた。続いて中学校長会に発言を求めた。
中学校長会	・ 生徒指導委員会やいじめ対策委員会を毎週開催している。 ・ 校長会では他校との関わりがある案件について重点的に情報交換を行い、特に近隣の小中学校とは密接に連絡を取り合っている。 ・ S N S トラブルについては、深刻化する前にネットリテラシー教育を定期的に繰り返しており、状況に応じて警察とも連携している。
議長	・ 地域との関係や S N S の課題への対応に謝意を示した。続いて P T A 連合会に発言を求めた。
春日部市 P T A 連合会	・ 学校と保護者の間で、問題が発生すればすぐに情報連携ができる信頼関係を構築している。 ・ 子供の些細な「負の感情」を全否定するのではなく、相手にされたこと以上にやり返さないといった「感情のアウトプット」の制御が課題であると考えている。 ・ 保護者自身も断片的・主観的な見方にならないよう、P T A の横の繋がりを通じて親としてのレベルアップを図っている。
議長	・ 保護者の視点による変化への気づきや予防策の重要性を指摘した。続いて青少年育成春日部市民会議に発言を求めた。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
青少年育成春日部 市民会議	・ 小・中・高校生約1万4千人に「闇バイト」の危険性を啓発するチラシを直接手渡しで配付した。 ・ 「少年の主張作文コンクール」では1,589名の応募があり、多様性やジェンダー、いじめをテーマにした作品が多く見られた。 ・ 1月には「子供のやる気を引き出すコミュニケーション」をテーマに講演会も開催した。
議長	・ 啓発活動が対策の大きな一歩になると述べた。続いて青少年育成推進員協議会に発言を求めた。
春日部市青少年育 成推進員協議会	・ 地域密着型でパトロールや挨拶運動を行い、いじめの早期発見に努めている。 ・ SNS相談窓口「つながる市」の二次元コード入り啓発品を配布し、LINEで相談できる環境を周知している。3月には全児童生徒に活動を掲載した機関紙を配布する予定である。
議長	・ 相談窓口の周知や、外部機関の存在が保護者の安心に繋がると述べた。続いて春日部警察署に発言を求めた。
春日部警察署	・ 生徒同士のトラブルから暴力事件に発展した際は学校と連携して適切に対応している。特に自撮り画像の拡散といった被害については、一度拡散すると取り返しがつかないことを強く指導している。
議長	・ 「犯罪」という一線を引いた指導が、重大さに気付くきっかけになると述べた。続いて春日部市自治会連合会に発言を求めた。
春日部市自治会連 合会	・ 毎月の防犯パトロールや、月1回の「青パト」巡回を実施している。 ・ 登下校時の見守り隊は高齢化による解散という課題もあるが、地域の「人の目」があり、子供たちと顔見知りになることで暴力行為の抑止に繋がっている。 ・ 非行防止教室等でSNSリテラシーテストを実施し、生徒に危険性を理解させている。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議長	・ 地域の視線が犯罪やいじめの予防に有効であると述べた。続いて春日部市民生委員・児童委員協議会に発言を求めた。
春日部市民生委員・児童委員協議会	・ 午後３時の放送時に外へ出る「ゆるやかな見守り（ゆるまも）」を継続している。また、中学校へ図書券、小学校へチューリップの球根を贈呈するなど、学校への支援活動を通じて子供たちを温かく見守っている。
議長	・ 地域活動が孤立を防ぎ、情操教育やいじめ防止の土壌作りに寄与していると述べた。続いて人権共生課に発言を求めた。
人権共生課	・ 「こどもの人権１１０番」や「ＳＯＳミニレター」の周知を行っている。 ・ 人権擁護委員が手紙等で相談者に寄り添った回答をしており、越谷法務局管内では約５０件の相談が寄せられている。緊急事態には学校や関係機関と連携して救済措置をとっている。
議長	・ 人権の視点や、多様な相談ルートの有効性を指摘した。続いてくらしの安全課に発言を求めた。
くらしの安全課	・ 交通指導員やボランティアによる子供の見守りを実施している。 ・ いじめによる金品要求が、誰にも相談できず「闇バイト」に走るきっかけになるリスクがあるため、警察と連携してその危険性を啓発している。
議長	・ 他の犯罪への発展を防ぐことが、いじめ対策にも繋がると述べた。続いてこども育成課に発言を求めた。
こども育成課	・ 放課後児童クラブでの対応に加え、夏休みに第３の居場所として「武里ユースセンター」を試行開設し、１７７名が利用した。アンケートでも好評であり、悩みを打ち明けやすい場所としての充実を図っている。
議長	・ 安心できる居場所が予防や早期発見に繋がると述べた。続いて指導課に発言を求めた。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
指導課	・ 指導課は学校現場が孤立しないよう支援している。いじめの認知に苦慮している学校に対し、指導主事が過去の事例に照らしてアドバイスをを行い、解決を図っている。 ・ 「スーパー元気・さわやかキャンペーン」のコーディネートを通じて、いじめを生まない土壌作りを推進している。
議長	・ 指導課によるバックアップの重要性を述べた。最後に社会教育課に発言を求めた。
社会教育課	・ 人権ポスター展を開催し、SNSトラブルをテーマにした作品も多く見られた。専門家によるSNS・ネットいじめの講演会も実施している。 ・ 現在、「家庭教育支援チーム」の立ち上げを準備しており、今後、地域・家庭・学校を繋いでいじめ問題の発見や解決に寄与していく。
議長	・ 啓発活動の意義を述べ、新チームへの期待を示した。
越谷児童相談所	・ いじめの背景にはネグレクトや虐待、発達障害、家庭環境など複雑な要因が絡んでおり、単純に切り離せるものではない。 ・ 各機関が情報を「見える化」して共有し、連携の先にある支援に繋げていくことが極めて重要であると締めくくった。 -協議事項(3):令和8年度いじめの防止等への対策について-
議長	・ 令和8年度に向けたいじめ防止対策について重点項目や、さらなる連携強化の在り方について意見を求めた。
小学校長会	・ 今年度の取り組みをさらに強化し、継続して取り組んでいく。
中学校長会	・ 事務局からの「地域の目」という話を受け、来年度も引き続き地域との結びつきを重点的に強化していく。
春日部市PTA連合会	・ これまでの活動をベースとしつつ、社会教育課などの他部署とも連携し、相乗効果を狙えるような体制づくりを目指していく。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
青少年育成春日部 市民会議	・ 来年も同様に4つの活動の柱（非行防止、作文コンクール、講演会、体験活動）を中心に活動していく。ポスターや作文に関しては学校現場に多大な負担をかけているが、引き続き協力を依頼した。
春日部市青少年育 成推進員協議会	・ 今年度と同様、地域に密着したパトロールや見守り活動、SNS相談窓口の周知を継続していく。
春日部警察署	・ 来年度も引き続き、SNSリテラシー教育などの非行防止教室を継続し、学校との連携を深めていく。
春日部市自治会連 合会	・ 地域でのパトロールや見守り活動を継続して実施していく。
春日部市民生委 員・児童委員協議会	・ 「ゆるまも（緩やかな見守り）」や学校支援活動を、来年度も継続していく。
人権共生課	・ 現在行っている事業を継続・充実させるとともに、近隣自治体との広域的な連携も視野に入れ、より効果的な啓発活動を研究していく。
くらしの安全課	・ 今年度と同様の取り組みを継続し、交通安全と防犯の両面から子供たちの安全を確保していく。
こども育成課	・ 今年度の活動を継続・充実させながら、各団体の協力を得て、子供たちの健やかな育成と居場所づくりに取り組んでいく。
指導課	・ 令和8年度も引き続き学校現場への支援を軸とする。各委員から指摘のあった「地域の目」を活かし、学校内では届かない部分を皆様と共有することで、いじめの「見える化」を推進していく。
社会教育課	・ 今年度の報告内容をさらに充実させる。特に令和8年度は、新たに立ち上げる「家庭教育支援チーム」を本格始動させる。地域・家庭・学校を繋ぎ、そのネットワークの中でいじめ問題の発見や解決に寄与できるような機能を持たせていく。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議長	・ いじめの背景にはネグレクトや虐待、発達障害、家庭環境によるストレスなど、単純に「いじめ」という言葉だけでは切り離せない複雑な要因が多々ある。 ・ 普段関わりの薄い機関同士であっても、学校や行政を通じて情報を共有し、連携のその先にある支援へ繋げていくことが重要である。関係機関の連携を一層深めていくことを確認した。
事務局	-事務連絡- ・ 来年度の第1回連絡協議会は、令和8年10月23日（金）午前10時から午後0時に開催する予定である。詳細が決まり次第、改めてご案内し、委員の推薦についても確認させていただく。 -閉会-
議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。	
令和8年2月27日	
副 会 長 大塚 剛司	